

西アフリカの旅—奴隷貿易の歴史—

アジア研究会 当麻実

はじめに

◆私とアフリカ ①所高時代—米黒人兵に英語を学ぶ ②明大時代—アフリカ研究会を4-5名で創設 1960年前後、ヨーロッパからのあいつぐ民族独立運動

◆アフリカのイメージは—野生動物？ 貧困？ 感染症？ 鉱物資源？ 民族紛争？

◆アフリカ大陸の地図をみて—東西南北の大きさは？ 植民地支配の歴史、今後の人口は？

◆西アフリカの旅(2014.2) ①旅の目的—かつての奴隷貿易の現場、アフリカの土着信仰 ②感染症予防—西アフリカは感染症多発地帯。たくさんの予防接種(黄熱病のワクチン、マラリア予防薬、破傷風、A型肝炎、髄膜炎ワクチン)

◆主なルート→バンコク、エチオピア経由、ギニア湾のナイジェリアのラゴスからベナン、トーゴ、ガーナの4カ国訪問。交通手段は車。走行距離は約2,400km。

アフリカの奴隷貿易の概略

◆奴隷貿易は1501-1867年の366年にわたり行われた。船は帆船で100-150トンが多い(日本の千石船は約150トン)。強制移送は、この間1,250万人といわれる。砂糖、たばこ、綿花、コーヒーなどのプランテーションに多くの労働力を必要とした。

◆アフリカから直接出航したのは1520年代中頃になってから。アフリカ人の支配者や奴隷の売人は、鉄器、銃と火薬などと交換。アフリカから出航した地域は、西中央アフリカ(今のカメルーン、コンゴ、アンゴラ)で45.4%、ベニン湾16.0%、黄金海岸9.7%など。

◆奴隷船はどこへ向かったか？ 95%は、ブラジルと西インド諸島へ。1641年以前の奴隷貿易は、ポルトガル、スペインが97%占めたが、18世紀半ばになるとイギリスのリバプールが最大の母港に。大西洋三角貿易(奴隷貿易)は、17-18世紀が最も活発。船籍国別のナンバー3は、ポルトガル、イギリス、フランス。

◆大西洋海域の風と海流→帆船にとって風・海流は大事。赤道北→北東貿易風と偏西風(時計回り)、赤道南→逆時計回りで南東貿易風と偏西風。

奴隷はどのように捕獲されたか

◆部族間の戦争、侵略、誘拐などを含む暴力。奴隷は海岸まで鎖につながれ、歩かされる。奴隷購入に役立つ品目—リネン、装飾品、酒類、マスケット銃などと交換。

◆奴隷の交換現場は、たとえば、エルミナ要塞、ケープコースト要塞。貿易商、奴隷商人、船長などは商品の品定め。奴隷は暗い地下牢に入れられ、輸送コストを考えて、数か月奴隷人数がそろうまで待つ。要塞の白人と女性奴隷。白人の感染症死亡率。

◆出航の港では、「船が到着して連れていかれる時ほど恐ろしい光景はなかった。鎖の音、

ムチのなる音、それから仲間のうめき声と泣き声しか聞こえなかった。これでもかというくらい残忍なやり方でムチ打たれ、たたかれ、その場で身動きができなくなった者もいた」

中間航路の体験

◆イギリスの大きな奴隷船「ブルックス号」(297 トン)の奴隷輸送は 600 人以上。イワシのように詰め込まれた船体図。この版画(1789 年)は反奴隷制のキャンペーンに使われた。西インド諸島における奴隷の輸送は、「2 人ずつ鎖につながれて、吐き気をもよおし、むかつくような、病が充満し」の状況。

◆航海日数は? 上ギニアからカリブ諸島へ 44 日、黄金海岸から 73 日、ピアフラ湾から 65 日は必要。奴隷船上の死亡一船員の場合、水葬前に礼拝あり。奴隷の場合は海上に投下。アフリカからカリブ海に到達した時の死亡率は 12-16%という。

◆奴隷の値段は? 1784 年西インド諸島グレナダ・英国船入港地では、質の高い奴隷は 35-40 ポンド。いまの値段でいくらぐらいか? 歯が一本欠けても値は下がる。

当時の船舶保険金は、船上の病死は保険金なし、海転落(投げ捨ては)はありという。

◆普通の貿易船より奴隷船の船員は 2 倍多い→奴隷監視と武装用。奴隷の反乱もあった。奴隷船は「移動する監獄」。奴隷は甲板上で、鎖をつけたままダンスもやらされた。

奴隷貿易廃止への道

◆1790 年代、クエイカー教徒はじめ、奴隷不買運動、英下院で奴隷貿易廃止法案だされる。ハイチでは砂糖・コーヒープランテーションから脱出した奴隷の反乱。1804 年黒人共和国ハイチ独立。英国は 1808 年奴隷の荷揚げ禁止に。ついに奴隷貿易廃止へ。とはいえ、密貿易もあり。1860 年代、奴隷制が残っている国は、アメリカ、キューバ、ブラジル、スリナム。米の奴隷制廃止はなぜ遅かったのか? 南部で綿花栽培が急速に拡大。1863 年 7 月のゲティスバーグの戦いで北軍勝利。1865 年奴隷制廃止が実現。

◆人間の尊厳・人権はどこに? 1,200 万人の黒人奴隷の歴史。600 万人以上のユダヤ人虐殺、ナチスのアウシュビッツ絶滅収容所の現場をみても、人間のおぞましさを感じる。

●主要参考資料など

※「環大西洋奴隷貿易歴史地図」ディヴィッド・エルティス他。東洋書林。この歴史地図の web「www.slavevoyages.org」は無料公開。世界中から新データが更新されている。

※「奴隷船の世界史」布留川正博、岩波新書

※18 世紀英国の元奴隷船長(ジョン・ニュートン)の讃美歌「アメージング・グレイス」

※映画「アミスタッド」(1839 年奴隷船の反乱)S.スピルバーグ監督。アマゾンで視聴可。